

目的 従来、和服の肩幅および袖幅寸法はゆき/2を1~2cm加減することによって設定され、着用者の体型を考慮した設定はあまりなされていない。そこで肩部の形態すなわち第7頸椎から肩先点までの幅ならびに肩傾斜角度の違いが和服の肩幅、袖幅とどのような関係にあるかを動作適合性および美的効果の二面から検討した。

方法 1)被検者は18~20才の女子短大生86名の身体計測結果をもとに、第7頸椎から肩先点までの幅により3体型、肩傾斜角度により3体型を選んだ。なお他の部位は近似である。2)実験着は綿35%、ポリエステル65%の混紡布を用い二部式とした。肩幅は肩先点から6cm下がる寸法を最小とし2.5cmピッチで変化させ、各被検者につき8種の実験着(B₁~B₈)を作成した。3)着つけは同一人が行い、上肢前挙(45°, 90°, 135°, 180°)による着くずれを観察した。4)美的評価は立位正常姿勢および上肢45°側挙姿勢の前面ならびに後面写真計4枚を1組とした資料を用い、袖付位置についてシエッフエの一対比較法“中屋変法”による5段階評価を行った。パネルは教員5名、学生6名である。

結果 1)動作による着くずれは脇に多く認められ、前挙角度が大になるほど大きい。2)肩幅の広い実験着は着くずれが大となる傾向がみられた。3)体型の違いによる着くずれの差はあまりみられなかった。4)美的評価ではパネル群による差は認められず、B₃(肩下がり寸法9cm)、B₄(同じく10.5cm)が高評価を受けた。すなわち袖付位置に対する美的効果は肩幅と袖幅の寸法比によるのではなく、肩先点からの下がり寸法によって評価されることが明らかとなった。